

9-1 現象では事物が転倒して現れることがよくある

「商品市場で直接に貨幣所持者に向かい合うのは、じっさい、労働ではなくて労働者である。労働者が売るのは、彼の労働力である。彼の労働が現実には始まれば、それはすでに彼のものではなくっており、したがってもはや彼によって売られることはできない。労働は、価値の実体であり内在的尺度ではあるが、それ自身は価値をもっていないのである。

「労働の価値」という表現では、価値概念はまったく消し去られているだけではなく、その反対物に転倒されている。それは一つの想像的な表現であって、たとえば土地の価値というようなものである。とはいえ、このような想像的な表現は生産関係そのものから生ずる。それらは、本質的な諸関係の現象形態を表わす範疇である。現象では事物が転倒して現れることがよくあるということは、経済学以外では、どの科学でもかなりよく知られていることである」(大月版『資本論』② P696)

注)青山 資本家に買われた労働力の価値が、「労働の価格」＝「貨幣で表現された労働の価値」として資本主義的生産関係のなかで現されると、価値の源泉である労働者は、その寄生虫である資本家の価値を創造するための手段のように転倒して見える。